

オンラインを活用した教職大学院の1期生を募集中です。 —「学び続ける教師」を応援—

副学長（教務・実習・教員研修担当） 志村 喬

令和2年（2020年）のCOVID-19感染拡大を機に、学校教育現場における情報通信技術を活用した授業実践が大きく進展しました。卒業生・修了生の皆さんは、当初は対応に追われご苦労も多かったでしょうが、現在は積極的にICT機器を活用されていることでしょう。これは大学も同様です。最初は教員も学生も戸惑いながらのオンライン授業開始でしたが、現在はZOOMやgoogleクラスルームなどのICT環境の利用が日常茶飯事になりました。

このような大学教育実践における情報通信技術活用の進展を背景に、上越大学の教職大学院（専門職学位課程）では、現職教員を対象とした「遠隔教育活用修学プログラム」を令和7年度から開講することとなり、現在、入学生を募集中です（「中期募集」出願期間は、郵送の場合10月11日（金）～10月23日（水）必着）。

これまでの大学院（修士課程・専門職学位課程）で学ばれてきた現職教員の皆さんは、教育委員会からの派遣制度や大学院修学休業制度・自己啓発等休業制度を利用して、上越市にある本学で開講されている授業へ対面で参加されました。そのためには、勤務校の仕事を離れるとともに、通学できる範囲内に居住する必要がありました。そして、それが叶わないために大学院での修学を断念した先生もおおいででした。私も学校教員として17年余務めました。学びたい教師がその機会を得られないことは、とても悔しいことです。ですから、そのような「学び続ける教師」を応援する必要があります。これに応えるのが令和7年度から開講する本学の教職大学院「遠隔教育活用修学プログラム」（現職経験3年以上対象）です。

このプログラムの授業は、オンデマンドを含む夜間のオンライン授業、夏季休業などの長期休業を利用した対面方式の集中授業、さらには授業担当教員と受講者の双方で日程調整して実施する不定期のオンライン授業といった多様な方法で実施されます。したがって、居住地を離れず、現任校に勤務しながら学ぶことができ、全国各地から入学が可能です。また、勤務を続けながらですので、校長など所属長の方の同意書を出願の際に提出していただきますが、教育委員会からの推薦は不要です。

現職教員として働いている皆さん向けのプログラムですので、修業年限は自身の状況に合わせて3年から5年の間で選ぶことができますが、何れの年限であっても授業料は2年間分です。また、入学してから、修業年限を短縮又は延長することも可能です。

上越教育大学では現在、修士課程にあったほぼ全てのコースが、教職大学院へ移行しています（心理臨床研究コースのみが修士課程）。そして、教職大学院にある全てのコース（領域・分野）が、本プログラムを導入しました。ですから、他大学に比べ、全ての教科教育、学校経営、学級経営、生徒指導、特別支援教育など、学校教育に関する幅広い領域・分野の中から学びたいものを選ぶことができることが、上越教育大学の大きな特長です。学びを深めたい分野が、必ず見つかります。

なお、教職大学院では、学校現場での学修（学校実習）も重視され、10単位の修得が求められています。このプログラムでの学校実習は、大学教員の指導を受けながら、基本的に勤務校で実施します。また、教育実践等の実務経験や教員経験年数の基準を満たせば、6単位の免除が可能です。その他の出願資格や授業の履修方法をはじめ詳しいことは、大学ホームページにある本プログラム紹介特設サイトや学生募集要項をご覧ください。大学院案内冊子には、各領域・分野別に全教員の専門の内容やメールアドレスを掲載していますので、希望する領域・分野・教員へもお気軽にご相談ください。もちろん、不明な点等は、担当窓口へ直接お問い合わせいただいても構いません。

上越教育大学教職大学院「遠隔教育活用修学プログラム」は、学校現場で働きながら学位「教職修士（専門職）」を取得し、「学び続ける教師」であり続ける先生向けの新しい学修プログラムです。

全国で活躍されている卒業生・修了生の皆さんからも、「学び続ける教師」を応援するオンライン活用の教職大学院を応援していただければ幸いです。

令和6年9月11日

「遠隔教育活用修学プログラム」紹介サイト：<https://www.juen.ac.jp/enkaku/>